

農 研 速 報

令和2年2月19日発行

茨城県農業総合センター農業研究所

〒311-4203 茨城県水戸市上国井町3402

TEL:029-239-7212 FAX:029-239-7306

麦の生育状況(2月12日現在)

地域名	麦種(品種)	生育ステージ	対平年遅速	生育(作柄・品質)概況等	備 考
水 戸	11月5日播種 小麦 (さとのそら)	幼穂形成期	2日早い	気象概況:1月第5半旬～2月第2半旬(過去5年間の平年値との比較) 上記期間の平均気温は5.2℃で、平年(3.2℃)に比べかなり高かった。降水量は103mmで、平年(26mm)に比べかなり多かった。日照時間は124時間で、平年(139時間)に比べかなり少なかった。 生育状況(過去5年間の平均値との比較): (11月5日播種) ●さとのそら 主稈葉数はやや多く、草丈は高く、茎数は少なかった。	【留意事項】 ・「幼穂形成始期」は初めて小穂始原体が分化した日 ・「幼穂形成期」は40～50%の茎に小穂始原体が分化した日 ・「対平年遅速」は、主稈長から予測した茎立期等を基に表記した。
	六条大麦 (カシマムギ)	幼穂形成期	3日早い	●カシマムギ 主稈葉数はやや多く、草丈はやや高く、茎数はやや多かった。	
	(カシマゴール)	幼穂形成期	1日早い	●カシマゴール 主稈葉数はやや多く、草丈は高く、茎数は少なかった。	
	二条裸麦 (キラリモチ)	幼穂形成期	-	●キラリモチ 主稈葉数は7.0枚、草丈は16.6cm、茎数は923本/㎡だった。	
	11月19日播種 小麦 (さとのそら)	幼穂形成期	平年並	(11月19日播種) ●さとのそら 主稈葉数はやや多く、草丈は高く、茎数は多かった。 ◇主稈長から予測した茎立期 (11月5日播種)さとのそら:3/22頃、カシマムギ:3/17頃、カシマゴール:3/11頃、キラリモチ:3/11頃 (11月19日播種)さとのそら:3/29頃	

表 畑における生育(水戸市 茨城県農総セ農研 作物研究室)

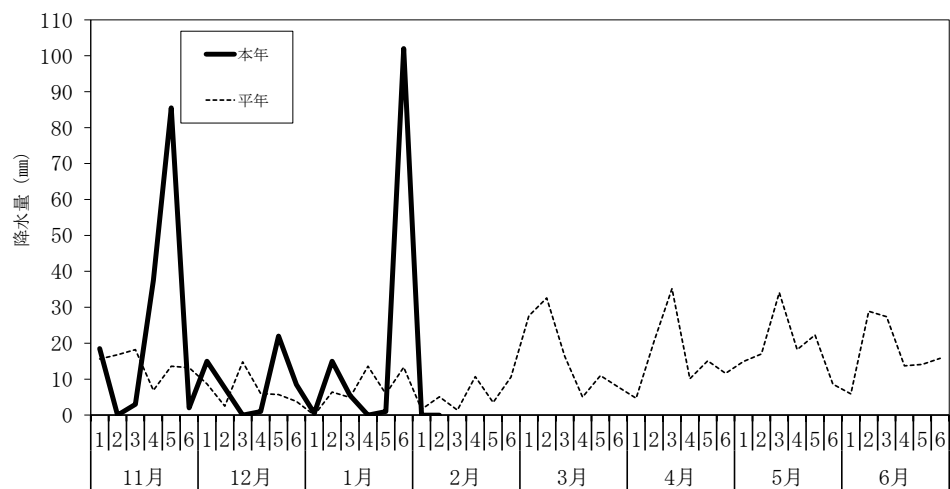
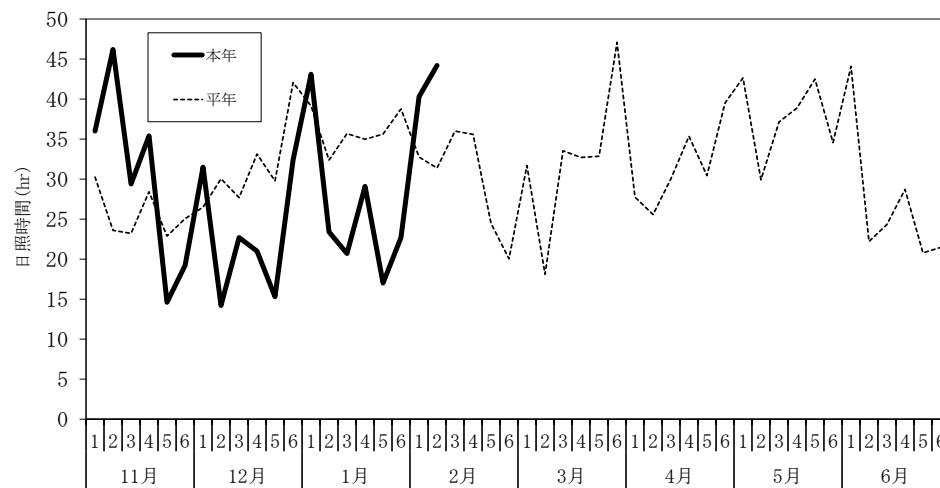
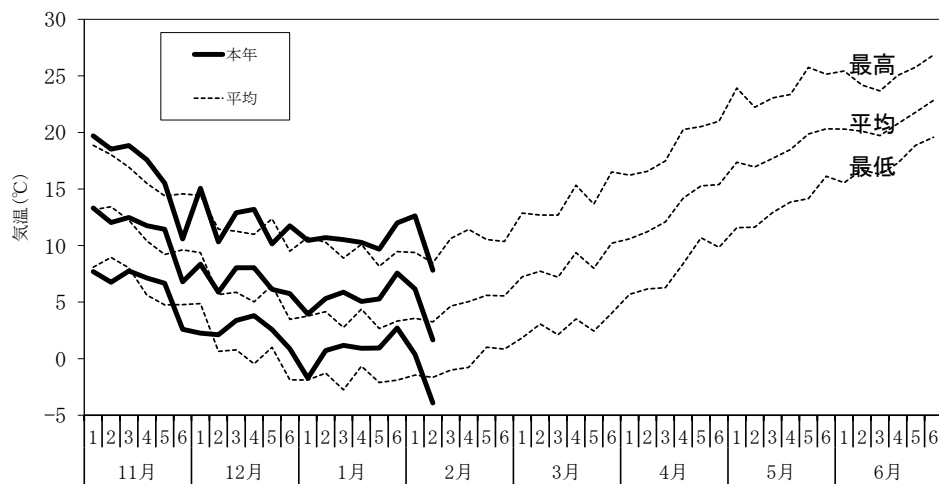
播種期 (月・日)	麦種	品種名	主稈葉数			草 丈			茎 数			葉色(SPAD値)		
			本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/㎡)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)
11.5	小麦	さとのそら	6.6	-0.4	+0.6	14.4	126	125	1,185	70	82	44.5	85	91
	六条大麦	カシマムギ	6.6	0.0	+0.5	14.6	112	114	1,260	108	116	47.3	82	88
		カシマゴール	7.0	+0.2	+0.4	18.0	128	125	1,047	82	77	37.6	83	89
	二条裸麦	キラリモチ	7.0	-	-	16.6	-	-	923	-	-	44.8	-	-
11.19	小麦	さとのそら	4.9	+1.0	+0.5	11.3	152	127	918	153	137	46.0	87	88

播種期 (月・日)	麦種	品種名	主 稈 長			主稈幼穂長			主稈長から予測した茎立期(月・日)		
			本 年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)	本 年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)	今後の気温の推移(平年比)		
11.5	小麦	さとのそら	4.3	+0.1	+0.6	0.8	+0.2	+0.2	3.25	3.22	3.20
	六条大麦	カシマムギ	5.2	+0.9	+1.1	2.4	+0.4	+0.6	3.19	3.17	3.14
		カシマゴール	6.3	+0.4	+0.5	2.3	-0.1	+0.1	3.13	3.11	3.09
	二条裸麦	キラリモチ	4.5	-	-	2.2	-	-	3.14	3.11	3.09
11.19	小麦	さとのそら	2.9	+0.4	0.0	0.5	+0.4	+0.2	3.31	3.29	3.26

耕種概要 1)圃場(来歴):表層腐植質黒ボク土(前作休耕畑) 2)播種量:0.8kg/a 3)施肥量:N-P₂O₅-K₂O=0.6-0.6-0.6kg/a

4)播種様式:畦幅30cm、シーダーテープ播種 5)平年値:平成26～30年播種の結果の平均。 6)麦踏み:12月13日、1月17日

7)キラリモチは令和元年度より調査開始。



麦(令和元年播種)における半旬別気象経過図
(水戸地方気象台データを参考に作成。平年値は直近5年間の平均値。)

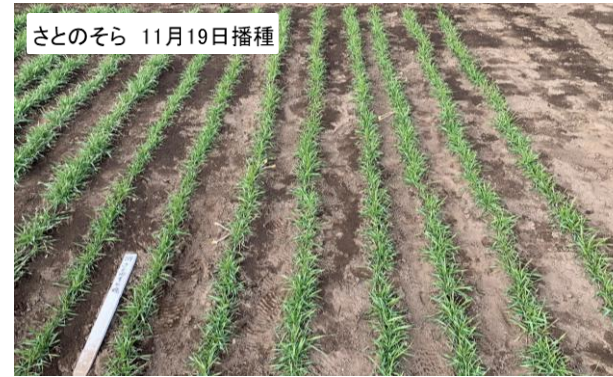


写真 所内での生育状況(2月12日撮影)

気象概況および生育状況における表現について

平年値(過去5年間の平均値)との違いの程度を、「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」等の階級区分で表しています。
各階級の幅は、下図のように、統計期間における出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めています。
さらに、「低い(少ない)」、「高い(多い)」については、補足的表現として下図に示す出現率となるように「やや」、「かなり」と表しています。

